

■西村茂樹 教育行政家、思想家。維新直後の洋学一辺倒の中、日本文化の確立に努めた。大槻文彦「言海」の生みの親。
にしむらしげき
シボト事件・1828＝ 江戸の佐倉藩士の家に生まれた。

大塩平八郎乱1837＝ 9歳：邸内の学校に入学して読書・習字を学ぶ一方、武術・馬術を修め、

天保改革始・1841＝13歳： 藩に招かれた安井息軒に儒学を学び、

順天堂始・・1843＝15歳： 藩主堀田正睦にお目見得して出仕、息軒に褒められ文学を志す。
天保改革終・1844＝16歳：眼病に罹る。
阿部正弘首座1845＝17歳：藩主の近習となり、
孝明天皇・・1846＝18歳：邸内学校の教諭となった。

北斎没・・・1849＝21歳： 支藩の佐野藩の付人になり藩政に参画、
国定忠治磔・1850＝22歳：眼病が治癒する一方、 父が死去して家督を相続、
尊徳報徳論・1851＝23歳： 佐久間象山に入門して洋学とともに高島流砲術を修める。

ペリー来航・1853＝25歳：結婚。藩主堀田正睦に居交易と出交易の得失を明らかにして積極的貿易論を説く。洋行を志すが果せず。

安政大地震・1855＝27歳： 藩主堀田正睦が老中外国事務専任となるに伴い、以後その側近として活躍する。

五ヶ国条約・1858＝30歳：正睦が老中御免となると、その後の時勢に感じて、

桜田門外変・1860＝32歳：
遣欧使節・・1861＝33歳：蘭・英学を修業、佐野藩政改革に努めつつ、翻訳や英学教授などを行ない、

禁門の変・・1864＝36歳：

大政奉還・・1867＝39歳： <大政奉還>に際しては、将軍徳川慶喜にも意見を上書、
明治維新・・1868＝40歳：<明治維新>後、佐倉本藩の年寄・執政を命じられ、執務のかたわら、
戊辰戦争終・1869＝41歳：タイトル著「万国史略」を訳すなどしていたが、

廃藩置県・・1871＝43歳： <廃藩置県>になって致仕、茂樹と改名、兵部省への徴を固辞し、
学問のすすめ1872＝44歳： 上京して私塾を開く。
明治6年政変 1873＝45歳： *森有礼の要請で明六社の創立に参画するとともに、文部省編集課長となる。
佐賀の乱・・1874＝46歳： 創刊の{明六雑誌}に寄稿し続けるが、社員の中では最も保守派に位置し、
初の民間工場1875＝47歳： 「修身治国非二途論」。
初民 1875＝47歳： {洋々社}を結成し、{洋々社談}を創刊。文部省の部下・大槻文彦に日本辞書の編纂を命じ、その自由な活動を保証して後に「言海」として実を結ぶ契機をつくる一方、
三つの反乱・1876＝48歳： *急激な西欧文明の流入と儒教道徳の衰退を憂え、道徳興起をはかって、{東京修身学社}を創設。

琉球処分・・1879＝51歳： 創設された東京学士会会長となり、
・・・・・1880＝52歳： 文部省編集局長となって、儒教的な教科書「小学修身訓」を刊行。
明治14年政変1881＝53歳：
新体詩抄・・1882＝54歳：

病気がちで活動が停滞するなか、
秩父事件・・1884＝56歳： {東京修身学社}を{日本講道会}と改称して会長となる一方、宮内省出仕となる。

帝国大学始・1886＝58歳： *宮中顧問官となり、森文相より帝国大学総長就任を要請されるが、固持、「日本道徳論」を講演し、
国民之友始・1887＝59歳： これを出版して各省大臣や知友に配布し、欧化政策を批判するとともに、法や制度のみに目を奪われない忠孝道徳の高揚を力説。{日本講道会}をさらに{日本弘道会}と改めて拡大化をはかる。

初の対等条約1888＝60歳： 明治会や日本文章会の結成に参加。華族女学校長を兼任し、
帝国憲法発布1889＝61歳：
帝国議会始・1890＝62歳： 貴族院勅選議員に選ばれた。
足尾鉾毒始・1891＝63歳：

以後、各地を巡回講演し、著述しては刊行、支部の設置などを行なって組織を拡大し、
日清戦争始・1894＝66歳：

ビヲノ国産化・1900＝72歳： *老齢のため宮中顧問官を辞任後、病となり、

教科書疑獄・1902＝74歳： 文学博士号や勲一等を受ける中、没した。
代表著作は「泊翁叢書」(全2集)に収められている。

吉川弘文館人物叢書、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、